

交通の要衝

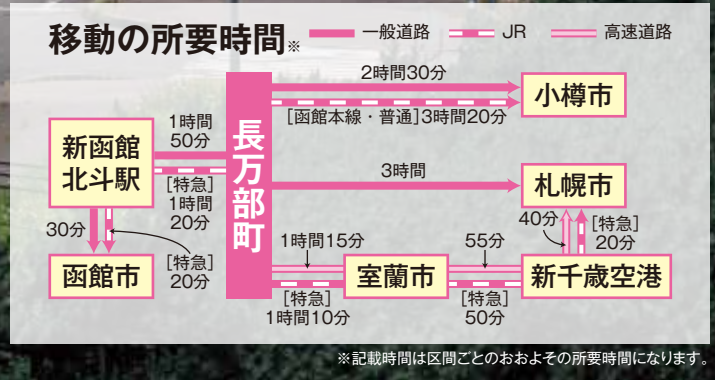
長万部



おしゃまんべ

長万部町は、札幌市と函館市のほぼ中間に位置しています。古くから交通の要衝として重要な地となっており、人や文化が絶え間なく行き交うことで、まちが形づくられてきました。

町内にJR函館本線・室蘭本線の分岐始発駅と2カ所の高速道路インターチェンジがあり、北海道の交通にとって重要なまちとなっています。



もうすぐ来るよ 北海道新幹線

2030年以降、北海道新幹線長万部駅が整備されることによって、長万部町から本州や札幌・函館へのアクセスが容易になります。近い将来、都市部への通勤や通学が現実的に可能になることから、新

幹線駅を核とした魅力あふれる交通都市を目指して、町民の皆さまと一緒にまちづくりを行っています。

自然環境豊かなまち

地形は、大部分が丘陵部と山地となっており、平地は内浦湾に沿って南北に分布し、川沿いに平

坦で肥沃な農耕地を有しています。また海岸のほとんどは自然の砂浜です。

長万部町の主な産業は、ホタテ養殖を主体とした水産業、酪農を主体とした農業となっており、1次産業を中心に発展しています。

町内イベントも、豊かな自然があるからこそ可能なものが多々あります。

はしっこ同盟



黒松内町・豊浦町と新幹線駅圏域の盛り立てや、産業・移住定住等で連携を進めています。

春



写万岳（標高498.8m）の山開きに参加し、軽登山とジンギスカンBBQ。

夏



「おしゃまんべ毛がにまつり」で、長万部名産である毛がにを楽しむ。

秋



北海道最南端の高層湿原、静狩湿原で原生花めぐり。

冬



温泉は長万部町の自慢の一つ。ゆっくり浸かってひと休み。

移住者インタビュー



まつもと ゆうすけ
松本 雄佑さん
神奈川県・大和市出身

2018年より地域おこし協力隊として移住。2021年4月に町内の空き店舗を再生し「炭火焼き鳥まっちゃん」を開業。町民にこだわりの串を提供している。

ゼロからのスタート

地元神奈川県で内装業、美容師を経験した後、農業の魅力を感じ、移住先を検討。「農業を始めるなら北海道でやりたい」との思いがあった松本さん。長万部町地域おこし協力隊（農業分野）の募集が目に残り、応募。農業のノウハウを1から学ぶため、実際に農家さんの元へ研修に通っていた。しかし、任期中中に単身での移住を実現するため、焼き鳥屋の開業を決意した。「就農という当初の目標からは変わったが、長万部での開業は様々な人たちの繋がりがあったからこそ実現できた。」と話す。



人との関わりを求めて

もう一つ、移住の決め手となったのは、「小さい町ならではの、人々との繋がりにあこがれていたこと」。実際に移住して知り合った農家さんなど、町の方々の面倒見の良さは、想像以上だったそう。いまでは農産物を販売する青空市の開催に欠かさず協力している。「何かあったら親身になって相談できる方がたくさんいます。」と話す表情は、地域の居心地の良さを物語っていた。

いざ定住！これから移住を考えている方へ

町の方々との交流を持つため、町内行事やコミュニティ活動に積極的に参加していたそう。移住当時から参加している郷土芸能「長万部太鼓」は毎週の楽しみとのこと。

現在、焼き鳥屋として町の方々と接している松本さん。「長万部は、生活用品は町内で揃うし、都市部への交通アクセスも良い。海も山も市街地からすぐ行くことが出来る。不安だった冬の寒さはすぐ慣れました。」と先輩移住者としてのメッセージをくれた。



なかの みき
中野 美貴さん
北海道・岩見沢市出身

2016年より地域おこし協力隊として移住。退任後、子どもの教育事業を担う「officeごえん」を設立し定住。みきていの愛称で町の子どもたちから慕われている。

そうだ、あたらしいことに挑戦しよう

北海道内の特別支援学校で勤務していた中野さん。新しいことをしたいと仕事を探していたときに、たまたま目に留まったという長万部町地域おこし協力隊（観光分野）。よく見ると長万部町として初めての地域おこし協力隊の募集だった。「1期生なら、自分のやりたいことができると思ったので応募した。」と当時を振り返る。にぎやかなことが好きな中野さんにとって、観光関係の仕事は毎日が新鮮で、楽しみながら働いていたそう。



子どもに携わる仕事を

協力隊2年目には、木育マイスターの資格を取得。町の子どもに学校では学べない体験や経験をさせてあげたいという思いから、再び子どもの教育に携わっていく決意をした。「長万部に来たら、町内のイベントに積極的に参加していました。子どもやその保護者の方と話しやすい環境がすでに出来ていたので、教育関係の活動に方向転換しても仕事がしやすかったです。」と笑顔で教えてくれた。

ずばり、長万部のいいところは

「移住するには、その町の人の距離感が自分に合っているかどうかが大事だと思う。長万部の方々は移住者をお客様扱いしないんです。私にとって、近いけど、遠くない、ちょうど良い距離感です。」と答えてくれた。

「都会ではあまり体験できないことができる環境なので、もっと活かしていきたい。」と自身の手がける仕事への抱負も語ってくれた。



求む!! 地域おこし協力隊員 大募集中!



みんなのパワー、
まんべんなく発揮すんべ。

長万部町地域おこし協力隊として活動したい方！ぜひ、ご相談ください！

☎ 長万部町新幹線推進課

TEL (01377) 2-2450

✉ shinkansen@town.oshamambe.lg.jp



▲協力隊情報
掲載中！



このパンフレットはサマージャンボくじの収益金を活用して作成しています。